



2002年10月25日

VWニュービートル カップ シリーズ ドイツ最終戦(オッシャーズレーベン)リザルト

10月13日(日)、ドイツ連邦共和国ザクセン州にある「MOTOPARK Oschersleben: (オッシャーズレーベン)」にて、ドイツ国内で開催されているVWニュービートル カップ シリーズの最終戦が開催され、ニュービートル カップ ジャパン 2002のシリーズ チャンピオン:坂本祐也選手と、同じくVWレーシングGTI カップ2002のシリーズ チャンピオン:吉本智樹選手の2名が、日本の代表選手として初参戦。結果として坂本選手が5位、吉本選手が16位と健闘しました。

10月11日(金)と翌12日(土)の予選が初めてのコース アタックとなった両選手は、共に慣れないハイスピードでスリッピーなヨーロッパのサーキットを、短時間で如何に習熟できるかが課題となりました。1日目の予選では、坂本選手がトップ(1'42.391)と1.167秒差の7位に付け、吉本選手は6.493秒差の19位。続く2日目の予選では、坂本選手がトップとの差をさらに縮める1'41.967をマークしたものの、8ラップ終了時点でドライブシャフトトラブルによりスロウダウン。最終的に7位スタートのポジションを維持する形で予選を終了しました。一方、吉本選手も順調に周回を重ねたものの、VWニュービートル カップ頂上対決は厳しく、最後尾スタートで決勝を迎える事となりました。

10月13日(日)、定刻スタートの14:15から遅れること10分。一周3,667mを25分間+1ラップする、VWニュービートル カップ決勝戦(参加台数17台)が一斉にスタート。俄然気合の入った第1コーナーでは、上位2選手がいきなりスピンの見舞われるなど、序盤から波乱含みの展開となりました。そんな折、最後尾ながらロケット スタートを決めた吉本選手は、一気に3台をパス。その後も、9日目までは順調にポジションをキープするものの、10周目に痛恨のスピン。このレースを16位でフィニッシュしました。

一方、上位入賞の射程圏内からスタートした坂本選手は、スタート直後に4位までジャンプ アップ。しかしながら、1ラップ目の最終コーナーの手前で、十分に暖まっていないスリックタイヤの粘りも空しく、バランスを失いそのまま失速。後続車にブッシュされて無念のスピン。順位を11位まで大きく落してしまいました。しかし、ここから大きく流れが変わります。気持ちを入れ替えた坂本選手は2周目に9位に復活すると、3日目には8位へとじりじりと猛追を開始。10周目に5位に返り咲くと、そのアグレッシブな走りに、場内アナウンスも「サカモト ジャパン！」を連呼。中継のテレビカメラもあわせて坂本選手の快進撃を大きくクローズアップすると、スタンドでは目前を通り過ぎる坂本選手に大きな声援が沸き起こり、遠く離れた異国のサーキットでの、日本人ドライバーの優秀さと勝つ事への執念を強く印象付け観客を魅了。結果的には、惜しくも入賞には手が届かなかったものの見事に5位でフィニッシュ。レース後には多くの人達から握手と歓声が寄せられ、周囲からは「サムライ サカモト」コールが掛かるなど、坂本選手の不屈のスピリットは、多くの人々を感激させました。

このドイツVWニュービートル カップ最終戦の写真は、下記プレスクラブ内のプレスフォトにアップされています。

フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ドイツ最終戦

| 決勝 | ゼッケン | ドライバー/車名 | 国籍 | 所要時間 |
|----|------|---|-------|-----------|
| 1 | 1 | Kai Riemer: Moskovskaya-Race or fun | ドイツ | 27'14.769 |
| 2 | 4 | Jacek Henschke: Team Mintgen-Motorsport | ポーランド | 27'18.094 |
| 3 | 9 | Thomas Kappeler: ADAC VW Junior Team | ドイツ | 27'21.844 |
| 4 | 6 | Thomas Henkel: Team Mintgen-Motorsport | ドイツ | 27'22.191 |
| 5 | 40 | Yuuya Sakamoto: Volkswagen Racing | 日本 | 27'31.364 |
| 16 | 41 | Tomoki Yoshimoto: Volkswagen Racing | 日本 | 28'43.929 |